



防災Now

あきる野市防災・安心地域委員会

令和元年11月1日
(第3号)

発行責任者
防災・安心地域委員会
本部長 大久保 春彦

地震だ！
まず身の安全

してありますか？

家具類の転倒・落下・移動防止対策



地震時の家具類の転倒に注意



地震時の落下物に注意



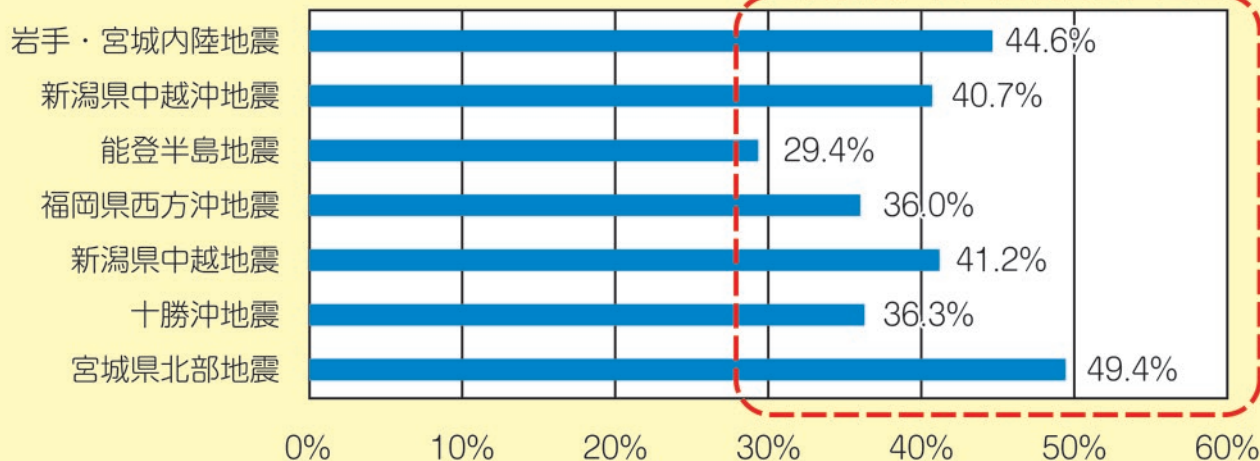
地震時の家具類の移動に注意

なぜ家具類の転倒・落下防止対策が必要なの？

地震による負傷の原因

近年発生した大きな地震でけがをした人について調べてみたところ、原因の約30～50%が家具類の転倒・落下によるものでした。

家具類の転倒・落下は、直接当たってけがをするだけでなく、つまずいて転んだり、割れた食器やガラスを踏んだり、避難通路をふさいだりするなど、いろいろな危険をもたらします。



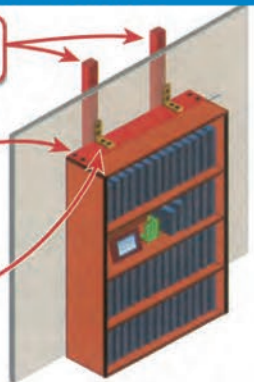
家具類の転倒防止・落下・移動防止対策

Point 本棚・タンスなどの場合

間柱は、壁裏センサーやブッシュピンで探すことができます。

家具の天板に強度がない場合は、家具幅全体に板を取り付けてから、金具を取り付けます。

L型金具等を壁に直接取り付ける場合は、壁の強度のある部分(石膏ボード壁裏の間柱等)にネジで固定します。



Point 日常的に動かす家具

着脱式移動防止ベルトで壁面につなぎます。

キャスターロックがあるものは、キャスターをロックします。



Point ガラス扉付家具の場合

扉は開かないように、とめ具をつけます。



家具の上に、物を置かないようにしましょう。

ガラス扉には、飛散防止フィルムを貼ります。

ボール式を使用する場合は、ストッパー式や粘着マット式を併用すると効果が高くなります。

上下に分かれている家具は平型金具で連結します。



Point 日常的に動かさない家具

できるだけ壁側にボール式を設置します。

キャスター下皿を設置します。



安全な家具の配置

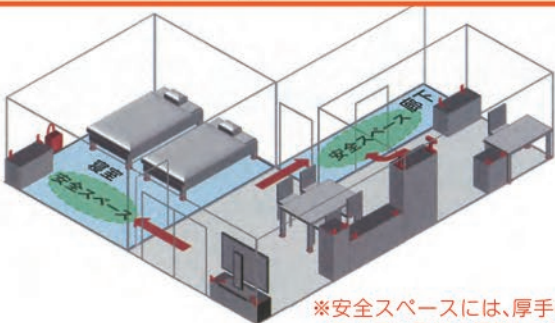
- 避難通路、出入口周辺に転倒・落下・移動しやすい家具類を置かないようにしましょう。
- 避難の妨げになることがあるので、家具類を置く方向にも注意しましょう。

室内の安全スペース

- 住居内で、なるべくものを置かない安全スペースを作っておきましょう。
- 緊急地震速報を受けた場合は、予め定めた安全スペースへ退避し、姿勢を低くして身の安全を図りましょう。

【安全スペースの例】

寝室・自宅内廊下・共用廊下・エレベーターホールなど



※安全スペースには、厚手の手袋、底の厚い履物を用意しておく。

ドアが開かない



ドアが開く



※ 東京消防庁発行の資料より引用